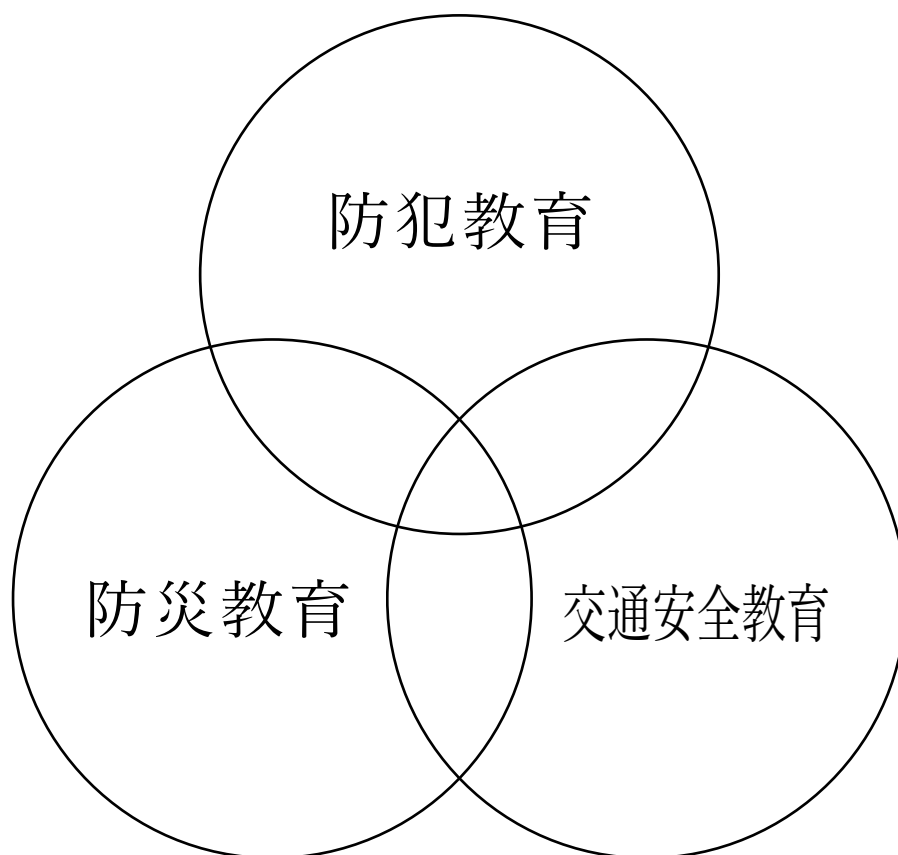


北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～



北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

令和6年（2024年）2月

はじめに

児童生徒が生き生きと活動し、安心して学べるようにするためには、児童生徒の安全の確保が保障されることが不可欠です。

しかしながら、今年初めに発生した能登半島地震をはじめ、近年、激甚化・頻発化する豪雨など大規模な自然災害、犯罪被害や交通事故の発生など、児童生徒の安全を脅かす様々な事案が全国で相次いで起きています。

こうした中、国が令和4年3月に策定した「第3次学校安全の推進に関する計画」では、学校安全を推進する方策として、「学校安全に関する組織的取組の推進」、「家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進」、「学校における安全に関する教育の充実」、「学校における安全管理の取組の充実」等を設定し、学校安全に関する具体的な取組の推進と学校安全に関する社会全体の意識向上を図ることとしています。

北海道教育委員会では、本年度、千歳市教育委員会、喜茂別町教育委員会、恵庭市教育委員会と連携し、防犯教育、交通安全教育及び防災教育に関する安全教育モデルの構築に向けて、「北海道実践的安全教育モデル構築事業」に取り組み、この度、その成果を「安全教育モデル」として取りまとめました。

学校、市町村教育委員会におきましては、本事業の成果を積極的に活用し、地域・関係機関等と連携し、児童生徒の安全・安心を確保する取組を推進するようお願いいたします。

結びになりますが、安全・安心な学校づくりのため、安全教育モデル構築にご尽力いただきました、千歳市、喜茂別町、恵庭市の関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

令和6年（2024年）2月

北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課長 大槻直広

< 安全教育モデル事例 目次 >

はじめに

目次

事業の概要	・・・ 1
◆ 防犯教育	
実践的安全教育モデル ～千歳市の取組～	・・・ 3
◆ 交通安全教育	
実践的安全教育モデル ～喜茂別町の取組～	・・・ 8
◆ 防災教育	
実践的安全教育モデル ～恵庭市の取組～	・・・ 14
■ 講評	・・・ 20
【防犯教育】	
学校安全アドバイザー 株式会社まちづくり計画設計 取締役 松村博文氏	
【交通安全教育】	
学校安全アドバイザー 北海道大学大学院工学研究院 教授 萩原亨氏	
【防災教育】	
学校安全アドバイザー 北海道教育大学釧路校 教授 境智洋氏 気象庁札幌管区气象台 防災気象官 宇恵野雅之氏	
令和5年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会 名簿	・・・ 23

令和5年度「北海道実践的安全教育モデル構築事業」(文部科学省委託事業)

防災教育、交通安全教育及び防犯教育等について、指導方法や教育手法の開発・普及、通学時を含めた学校における児童生徒等の安全確保体制の構築・普及及び専門家による指導・助言等を受ける取組を実施し、「北海道実践的安全教育モデル」を構築して、全道に普及させ、学校における安全教育・安全管理の一層の充実を図る。

4月

モデル地域における取組内容の計画(事業計画書の提出)

7月

第1回安全教育モデル構築推進委員会(取組内容の確定)

防犯教育

- 児童や保護者、地域住民の参加による「安全マップ」の作成
- 警察官等関係機関と連携した防犯教室・防犯訓練の実施
- 中核教員対象の防犯研修会
- 防犯リーフレット等の作成
- 事前・事後アンケートの実施

交通安全教育

- 通学路の合同点検の実施
- 合同点検結果に対する関係機関との改善策等の意見交換会
- 警察官等関係機関と連携した交通安全教室の実施
- 自転車に関する安全指導等
- 事前・事後アンケートの実施

防災教育

- 地域の実情に応じた実効的な避難訓練の実施
- 保護者への引渡し訓練の実施
- 地域・関係機関との連携による「1日防災学校」の実施
- 防災マップ等の作成
- 事前・事後アンケートの実施

取組の流れ

1月

「安全教育モデル(授業)指導案」の作成と「授業実践」

第2回安全教育モデル構築推進委員会(取組成果及び改善策等の発表)

モデル地域への支援

本庁

事業の全体構想及び成果の普及 (訪問～原則2回)

教育局

事業内容の整理及び進捗状況の管理 (訪問～モデル地域と協議し、数回)

アドバイザー

事業の取組向上のための支援 (訪問～モデル地域と協議し、数回)

効果

- 地域における安全教育に関するネットワークの構築又は既存のネットワークの活用・活性化
- 各学校における「危機管理マニュアル」・「学校安全計画」・「安全マップ」等の見直し・充実
- 専門的な指導助言を踏まえた安全教育・安全管理体制の充実と徹底 (安全教育の教育課程への位置付け)

ゴール

安全教育モデルの全道への普及及び児童生徒の命を守り抜くための体制の構築

防犯教育
(千歳市)

交通安全教育
(喜茂別町)

防災教育
(恵庭市)

令和5年(2023年)7月3日

第1回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会

■千歳市実践委員会
令和5年8月28日

■実践授業
令和5年10月25日
・富丘中学校全学年
特別活動「防犯教室」

■研修会
令和5年11月28日
・保護者、教職員
「千歳市の防犯について」

■実践授業
令和5年11月30日
・高台小学校1年
令和5年12月8日
・千歳第二小学校2年
令和5年12月15日
・末広小学校1年
特別活動「安心して登下校」

■実践授業
令和5年7月18日
・喜茂別町内の全小学生
特別活動「自転車交通安全教室」

■喜茂別町実践委員会
令和5年10月26日

■研修会
令和5年11月10日
・保護者、教職員
「家庭でできる交通安全」

■通学路交通安全マップ
作成
令和5年11月下旬

■交通安全キーホルダー
(リフレクター)贈呈
令和5年11月27日

■恵庭市実践委員会
令和5年10月16日

■実践授業
令和5年12月2日
・恵庭中学校全学年
「1日防災学校」
(地域合同避難訓練)

■実践授業
令和5年12月7日
・柏小学校4年
特別活動「防災教育」

■恵庭市実践委員会
令和5年12月21日

令和6年(2024年)1月16日

第2回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会

■実践授業
令和6年1月18日
令和6年2月1日
令和6年2月25日
令和6年2月29日
・柏小学校5年
特別活動「防災教育」

■千歳市実践委員会
令和6年3月(予定)

■喜茂別町実践委員会
令和6年3月(予定)

■恵庭市実践委員会
令和6年2月6日

防犯教育

～ モデル地域 千歳市 ～

1 実践的安全教育モデル（防犯教育）

(1) モデル地域について

千歳市は、市外からの流入が多く、新しく転居してきた方が多いため、住民間の交流が少ない地域である。拠点校区は閑静な住宅街で街灯が少ないため暗い場所が多く、不審者情報も多い地域であり、犯罪に遭う可能性が高い場所であると考えている。

こうした状況を踏まえ、拠点校においては、これまでも防犯について、防犯教室を行うなど、積極的に啓発活動を行ってきた。

今年度は、本事業の指定を受け、拠点校を主体として、拠点校区にある3校の小学校と連携を図りながら防犯教育に取り組んできた。警察や企業と連携をしながら行った防犯教室や地域見守り隊やPTAと連携した登下校時の防犯活動、拠点校区にある小・中学校の保護者、教職員に対して実施した防犯研修会の開催など、防犯教育の充実を図った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

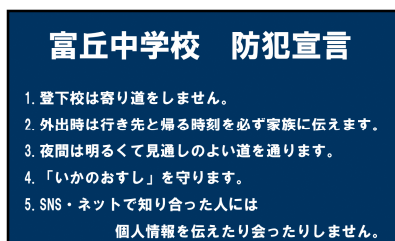
○外部機関と連携した防犯教室の実施

モデル地域の取組 ～関係機関や企業との協力した防犯教室

拠点校の千歳市立富丘中学校では、警察と連携し、防犯教室を実施した。生徒は警察の講話を聴き、「千歳市は犯罪の発生件数が多い」ことを認識し、防犯を自分事として捉え、生徒が主体的に自分の身を守ることについての協議や「防犯宣言」の作成を行った。

また、拠点校区内の3校の小学校では、拠点校の取組を参考に防犯教室について共通の指導計画を作成し、それぞれの小学校で統一した内容で実施した。

防犯教室では、企業（警備会社等）の出前授業を活用して体験的な授業を行った。ロールプレイを通して「いかのおすし」の具体的な行動を確認した。



【中学校で策定した防犯宣言】



【防犯教室（小学校第2学年）】

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○中学校区における地域と連携した見守り活動の実施

モデル地域の取組 ～通学路の危険箇所や児童生徒の把握

地域見守り隊やPTAには、これまでも交通安全に関する見守りをお願いしてきた。

今年度は、防犯活動の視点を加えた見守り活動を依頼することで、改めて地域見守り隊等と連携を強化することを確認した。

また、PTAの協力により、定期的に通学路の危険箇所を報告してもらい、その情報をもとに学校や地域及び保護者が連携した登下校の見守り活動をより強化している。



【地域見守り隊による登下校の防犯活動】



【PTAによる登校見守り】

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○中学校区の安全・安心を考える機会の設定

モデル地域の取組 ～中学校区内の学校間での連携

拠点校が主体となり、拠点校区内の小・中学校の保護者、教職員、地域見守り隊、地域住民を対象に中学校区防犯研修会を実施した。

研修会では、モデル構築事業の学校安全アドバイザーが「北海道（千歳市）の防犯について」と題し、千歳市に特化した防犯活動の在り方についての説明を行った。説明を受けて、参加者がグループに分かれ、拠点校区の防犯について協議を行った。

また、拠点校の生徒会が作成した防犯啓発ポスターを拠点校区内の小学校に配付するなど、校区内全体における防犯意識の向上を図る取組を行った。



【中学校区防犯研修会の様子】



【防犯啓発ポスター】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 外部機関と連携した防犯教室の実施

【成果】

- ・中学校区の小学校で防犯教室の内容を統一することにより、校区内で指導内容を焦点化することができた。
- ・実施方法を工夫することにより、児童生徒の防犯意識が高まり、身を守る判断力が向上した。
- ・児童生徒会活動など、児童生徒が主体的に考えて行動する取組が充実した。

【課題】

- ・児童生徒一人一人に、地域の子ども 110 番の家や危険箇所などを把握させる必要がある。

2 中学校区における地域と連携した見守り活動の実施

【成果】

- ・地域や保護者と学校が一体となり、児童生徒の安全確保に向けた体制を確立できた。
- ・保護者などからの定期的な活動報告により、通学時の危険箇所や児童生徒の様子を把握することができた。

【課題】

- ・通学時における地域見守り隊の人員の確保が難しい。

3 中学校区の安全・安心を考える機会の設定

【成果】

- ・交通安全に加えて、防犯の観点で、中学校区内の各学校と地域が課題及び改善点を共有することができた。
- ・中学生による主体的な取組を、中学校区の各学校で共有することができた。

【課題】

- ・防犯や交通安全及び災害対策は、地域や企業等、関係機関と連携し、市全体への普及が必要である。

〔今後の取組について〕

- ・拠点校区で行われた取組の好事例について「見える化」を行い、千歳市内の小・中学校に広く周知していく。
- ・千歳市役所や市内の小・中学校にある既存の連絡協議会等と新たな連携について検討を進める。

1 年生 特別活動 学習指導案

日 時 令和5年11月30日(木)

場 所 高台小学校 体育館

対 象 1年生 32人

指導者 1年生担任

ALSOK (ゲストティーチャー)

1. 活動名 「安心して登下校」

2. 本時の目標 児童に登下校中の危険について気付かせ、具体的な対処方法として「いかのおすし」という言葉を覚え、行動を身に付けさせる。

3. 授業の展開

	児童の活動	支援	備考
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 知っていることを発表し、交流する。 これまでの経験から、知っていることを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師紹介 身近な防犯器具の紹介 「いかのおすし」を聞いたことがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯ブザー等 ガードマン登場 いかパーツの活用
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「いかのおすし」をして、あぶないことから じぶんをまもろう </div>			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 「いかのおすし」の5文字は、それぞれどんな言葉につながるのか、考える。 考えたことを、グループで交流し、考えを深める。 一文字ずつ、具体的な行動を発表する。 それぞれの行動について、ロールプレイを通して、実際の場面をイメージする。 ガードマンからのアドバイスをを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いかのおすし」の一文字ずつに着目させ、それぞれの行動の大切さをまで考えるよう、働きかける。 具体的な行動(逃げるなど)に対して、声の出し方や逃げる先、知らせる人など、より実践的な内容まで考えるよう掘り下げる。 具体的な行動につながるよう発表を促し、全員がイメージできるようにロールプレイを行う。 ガードマンの装備を紹介し、子供との違いを通して、「いかのおすし」の大切さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いかのおすし」ボードの活用 担任や講師が各班を回って、交流を活性化させる。 見かけの判断 距離の取り方 大声の出し方 ホイッスルやブザーの使い方 不審者にあつたとき
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 自分を守ることにについて、自分の言葉で考えを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめを自分の言葉で言えるようにサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習内容をまとめた資料を配布する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「いかのおすし」のこうどうを わずれずに じぶんをまもる </div>			

交通安全教育

～ モデル地域 喜茂別町 ～

1 実践的安全教育モデル（交通安全教育）

(1) モデル地域について

喜茂別町は、交通量が多い国道 230 号線及び国道 276 号線が交差しており、小中学校の通学路にも交通量の多い道路や信号のない交差点が多くあることから、児童生徒が交通事故に遭う可能性が高い地域であると考えている。

こうした状況を踏まえ、拠点校においては、これまでも交通安全について、学校便りや町の広報誌等により積極的に発信をしてきた。

今年度は、本事業の指定を受け、学校運営協議会が主体となり全町で交通安全教育に取り組んできた。児童生徒が日常の危険を予知し、自ら考え行動する力を高めることができるよう、関係機関と連携した体験型交通安全教室の実施や、町内の児童生徒のヘルメット着用率向上を図るための自転車乗車用ヘルメット貸与事業など、交通安全教育の充実を図った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○自転車乗車時の交通ルールについての学習機会の提供

モデル地域の取組 ～体験型交通安全教室の実践

拠点校の喜茂別町立喜茂別小学校を会場に喜茂別町立鈴川小学校と合同で体験型交通安全教室を実施した。

交通安全教室では、自転車ドライブシミュレーター体験や障害物を設置しての自転車乗車体験、交通ルールクイズを行うなど、児童が主体的に学習できるように工夫しながら実施するとともに、地元警察の方から自転車乗車用ヘルメットの重要性を伝えてもらい、ヘルメット着用への意識を高めた。

また、交通安全教室の開催に併せ、登校の見守りをしていただいている町内会の方に感謝状を贈呈し、交通安全に関わる方へ感謝の気持ちの醸成を図った。



【自転車乗車体験の様子】



【ドライブシミュレーターによる乗車体験】

【モデルPOINT②】地域や家庭との連携による安全確保体制の構築

○地域や保護者への交通安全啓発活動の促進

モデル地域の取組 ～家庭でできる交通安全の推進

学校運営協議会事業と併せ、保護者・教職員向けに、小・中学生における事故発生状況、通学路における危険箇所把握の必要性、自転車乗車用ヘルメットの重要性についての研修会を実施した。

研修会では、発達段階に応じた子ども目線で考える交通事故への備えや危険箇所マップの作成（見える化）の促進について話し合われた。

研修後、作成した危険箇所マップは、町内の小・中学生はもとより、次年度、小学校に入学する児童の保護者に配付され、入学前に通学路の危険箇所について、親子で確認する機会を作ることができた。



【研修会の様子】



【危険箇所マップの作成】

【モデルPOINT③】小中連携による持続可能な取組の推進

○自転車乗車用ヘルメットの貸与等による交通安全体制の充実

モデル地域の取組 ～自転車乗車用ヘルメット着用促進の取組

喜茂別町で自転車乗車用ヘルメットを準備し、町内の小・中学生に貸与する取組を実施した。

これにより、児童生徒のヘルメットの所有率、着用率は向上しており、次年度以降も継続して貸与することにより、着用率 100%を目標に取り組んでいる。

また、夜光反射材付キーホルダーを作成し、児童生徒に身に付けてもらうことで、登下校時の安全確保と交通安全への意識向上を図った。



【自転車用ヘルメット装着方法の指導】



【キーホルダーの贈呈(中学校)】



2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 自転車乗車時の交通ルールについての学習機会の提供

【成果】

- ・ 自転車乗車時の交通ルールについて見識を深めることができた。
- ・ 児童がヘルメットの重要性を認識することができた。
- ・ 交通安全に関わる地域の方々への感謝の気持ちを醸成することができた。

【課題】

- ・ 実生活における交通状況に合わせた学習機会の提供及びヘルメット着用の普及拡大に向けたさらなる取組を行う必要がある。

2 地域や保護者への交通安全啓発活動の促進

【成果】

- ・ 学齢に合わせた交通安全指導について学ぶことができた。
- ・ これから就学する家庭に対しての情報提供の必要性を確認することができた。

【課題】

- ・ 継続的で実情に即した交通安全の取組を進めていくための連携の維持・強化を行う必要がある。

3 自転車乗車用ヘルメットの貸与等による交通安全体制の充実

【成果】

- ・ 自転車乗車用ヘルメット貸与事業を実施し、所有率、着用率の向上が見られた。
- ・ 警察等、関係機関と連携した事業を実施することができた。

【課題】

- ・ 自転車乗車用ヘルメットの着用率の目標達成に向けて、今後も継続して着用を働きかけていく必要がある。

〔今後の取組について〕

次年度以降も自転車乗車用ヘルメットの貸与等でヘルメット着用促進を継続することで、町内の児童生徒の着用率 100%を目指している。

今年度、取り組んだ内容については、学校運営協議会を主体として、次年度以降も継続して取り組むことになっており、取組の発展が見込まれる。

モデル地域内はもとより、近隣の市町村へも発信しながら、児童生徒を交通事故から守る取組を実践していく。

喜茂別小学校自転車交通安全教室実施要項

1 期 日 令和5年7月18日(火) 3.4時限目 10:10~11:45

2 会 場 喜茂別小学校体育館

3 参加対象

①喜茂別小・鈴川小学校全児童・教職員

②鈴川小学校・喜茂別中学校教職員

③倶知安警察署・喜茂別駐在所職員

④喜茂別町教育委員会職員

⑤交通安全協会職員・役場職員

⑥喜茂別町学校運営協議会委員

⑦幸町町内会長・会員

4 進 行

内容	発言内容	備考
開会	これから、交通安全教室をはじめます。 はじめに、校長先生からお話があります。	
校長あいさつ	～あいさつ～	
がたんす	<p>それでは、今日の交通安全教室でみなさんに、自転車の乗り方や交通安全について教えていただく先生を紹介します。</p> <p>・倶知安警察署交通課 ○○さんです。</p> <p>つぎに、今日の交通安全教室の内容を説明します。</p> <p>はじめに、自転車を乗るときに気を付けることについて、○○さんからお話をしていただき、そのあと、シミュレーターを4～6年生の代表の児童に体験してもらいます。</p> <p>次に、交通安全についてのクイズ大会をします。</p> <p>最後に、4～6年生の代表者が、体育館の後ろ側にある障害物を使った自転車の運転を体験してもらいます。</p> <p>学習が終わった後に、みなさんに自転に乗るとき用のヘルメットを児童会代表に贈呈します。</p> <p>その後各教室に戻って、アンケートを書いて終了となります。</p>	
交通安全講話 シミュレーター	<p>それでは、さっそく交通安全についてのお話とドライブシミュレーターを使った運転体験をします。</p> <p>倶知安警察署 ○○さんよろしくお願ひいたします。～講話～</p> <p>シミュレーターは3シーン程度用意する。(1シーン10分程度)</p>	講話と実技を交互に行い、実技をしていない児童にも考えてもらう。

交通安全クイズ	<p>〇〇さんありがとうございます。</p> <p>シミュレーターを使った乗車体験はどうでしたか？</p> <p>自転車を運転していると、様々な危険や注意しなければならない場面が出てきますので、実際に乗るときも、よく注意して乗るようにしましょう。</p> <p>それでは、交通安全についてのクイズ大会をします。</p> <p>～クイズ大会実施～</p>	
自転車乗車実技	<p>4～6年生の代表は、体育館入口側で障害物のある道を実際に自転車で走ってもらいます。</p> <p>代表者以外の児童はその場から見学となります。</p> <p>～実技開始～</p> <p>ジグザク走行、縄梯子走行、板乗り走行</p>	代表生徒はヘルメットを着用
ヘルメット貸与・仕様説明等 閉会	<p>クイズ大会と運転体験はどうでしたか？</p> <p>交通ルールはとても大事なのでしっかりと覚えてください。運転体験は、実際にはこのような難しい道を走ることはないと思いますが、様々な道路状況がありますので、気を付けながら運転を心がけてください。</p> <p>それでは、児童のみなさんにヘルメットを渡します。</p> <p>児童代表 ●●さんは前に出てきてください。</p> <p>～ヘルメット貸与～</p> <p>倶知安警察署 〇〇さんよりヘルメットの正しい着用についてお話していただきます。～説明～</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これから夏休みを迎え、自転車に乗る機会が多くなります。</p> <p>もしものためにヘルメットを正しく身に着け、安全に自転車に乗ってください。</p> <p>ここで、本日お越しいただいております、交通安全母の会より、交通安全の啓発品を児童に贈呈いただきます。～啓発品贈呈～</p> <p>次に、町内会様へ、日頃の児童の登校見守りに対しての感謝を込めまして、感謝状を贈呈いたします。</p> <p>町内会長 △△様前のほうにお越しく下さい。</p> <p>～感謝状贈呈～</p> <p>それでは、最後に児童代表 □□さんより、今日みなさんに交通安全について教えていただいた倶知安警察署 〇〇さんにお礼のあいさつをします。</p> <p>～あいさつ～</p> <p>以上で交通安全教室終了いたします。</p>	<p>贈呈者 倶知安警察</p> <p>受取者 児童会</p> <p>説明者 倶知安警察</p> <p>贈呈者：母の会</p> <p>授与者：児童会</p> <p>校長から</p> <p>町内会長へ</p> <p>児童代表あいさつ</p> <p>児童会</p>

防災教育

～ モデル地域 恵庭市 ～

1 実践的安全教育モデル（防災教育）

(1) モデル地域について

恵庭市は、石狩平野の南部に位置し、市内中心部に大きな河川が流れているほか、年間を通して穏やかな気候となっているが、近年は台風や大きな地震による被害、大雪による交通障害等が度々発生しており、自然災害等への備えが重要となっている。

こうした状況を踏まえ、拠点校においては、これまでも防災について、避難訓練等の防災教育の実施や学校便りによる発信を継続的に行ってきた。

今年度は、本事業の指定を受け、拠点校及び近隣の学校において、地域と協力した防災教育に取り組んできた。拠点校における「1日防災学校」では、地域と連携し発達段階に合わせた体験的なカリキュラムを実施した。

市内の全小・中学校では、地域の関係機関の協力のもと、教育課程に位置付けた救急救命講習を実施した。

また、中学校で行った防災に関する体験学習を小学校でも実施するなど、小・中学校が連携し、防災教育の充実を図った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的防災教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○「1日防災学校」を中心とした防災教育の実施

モデル地域の取組 ～体験学習等を取り入れた「1日防災学校」

拠点校である恵庭市立恵庭中学校では、地域との連携と発達段階に応じた体験学習に重点を置いた「1日防災学校」を実施した。

代表生徒による実践発表では、3年生が修学旅行で東北の被災地を訪れた際に学習したことや今後の自分たちにどのようなことが必要かを発表した。

学年別の体験学習において、1年生は「クロスロード 災害時の判断」、2年生は「段ボールベッド組立体験、災害用トイレ設営体験」、3年生は「Dohaku」を実施し、防災や減災に対する意識の向上を図った。



【代表生徒による実践発表】



【段ボールベッド設営体験】

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○地域との連携による防災教育の充実

モデル地域の取組 ～地域人材の活用による防災に関する授業づくり

地域人材の活用による防災に関する授業づくりの一環として、拠点校における「1日防災学校」にて地域で活動する「北海道地域防災マスター」による講演会を行った。

講演では、「災害が起きたら自分たちはどうする？」と題して、地域住民の目線で防災の必要性を訴えた。

また、恵庭市内の全小学校6年生および全中学校2年生が、恵庭市の消防署と連携しながら教育課程に位置付けた救急救命講習を実施し、心肺蘇生法について学習した。

※北海道地域防災マスター：北海道が認定した、消防や市町村等で防災業務を経験者で地域の防災活動の中心となって活動いただける方。



【「1日防災学校」講演】



【救急救命講習（第6学年）】

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○小中連携による系統的な授業づくり

モデル地域の取組 ～発達段階に応じた資質・能力の育成

拠点校で実施した「1日防災学校」の取組を参考に、近隣の小学校でも発達段階に応じた防災に関する体験学習や中学校で実施している防災学習の様子について、小学校への周知を行った。

小学校で実施した体験学習は、中学校へ接続することを意識して構成されており、防災学習を通して、小・中学校が連携するイメージの共有に繋がるため、今後も継続的に連携を行っていくとともに、他の地域への普及も行う。



【防災授業（第5学年）】



【「1日防災学校」の掲示物】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 「1日防災学校」を中心とした防災教育の実施

【成果】

- ・体験学習等を取り入れたことにより、防災に対する意識が向上した。
- ・地域住民の参加を促すことで、防災教育を通じた地域交流の活性化を図れた。
- ・発達の段階に合わせたカリキュラムによる系統的な学びを構築できた。

【課題】

- ・教科における学習の中で、防災教育に繋げる系統的なカリキュラムの構築が必要である。

2 地域との連携による防災教育の充実

【成果】

- ・防災の視点から、地域交流を含めた「ふるさと教育」の推進による専門的な指導の充実が図られた。
- ・小学校と中学校の系統性を意識した教育課程の編成による、継続的な資質・能力の育成をすることができた。

【課題】

- ・教員による防災教育の指導機会の確保も必要である。

3 小中連携による系統的な授業づくり

【成果】

- ・第4・5学年を対象とした防災学習の実施及び中学校への連携・接続を見通した系統的なカリキュラムの構築が図られた。
- ・小中連携による防災学習のイメージの共有ができた。

【課題】

- ・小中連携による防災学習の継続的な取組の推進が必要である。

〔今後の取組について〕

- ・児童生徒の発達の段階に応じた資質、能力を身に付けるために、防災に係る要素を教育課程に位置付け、教科等の関連を図れるよう、学校における防災教育の見直しを図る。
- ・防災教育を継続して実施していくために、市内の小中連携組織や教職員研修において、防災教育に係る取組を取り上げ、市内全体の意識啓発を図る。

R5 恵庭中学校「1日防災学校」実施計画

第1回北海道実践的安全教育モデル構築事業・恵庭中学校CS事業

主幹教諭発

実施(予定)日	令和5年12月2日(土)土曜授業
---------	------------------

【日程】

		1学年	2学年	3学年	特別支援学級6組	地域の参加
1	教科	総合的な学習の時間				○
	内容	講演会 災害が起きたら自分たちはどうする？				
	場所	恵庭中学校 体育館				
8:45 ~ 9:15	講師等	佐々木正博氏(防災マスター・駒場町在住)				
2	教科	総合的な学習の時間				○
	内容	発表「防災、震災学習で学んだこと」について ～3年間の防災学習や修学旅行での経験から 第3学年				
	場所	恵庭中学校 体育館				
9:30 ~ 10:00	講師等	3年生代表生徒				
3	教科	特別活動				各体験学習参観○
	内容	①「クロスロード」災害時の判断⇒6名×6班×4クラス ※テーマに基づいて、話し合い活動 ②新聞スリッパ作成体験	ダンボールベッド組立体験、災害用トイレ設置体験 ・全体で概要説明(10分) ・2学級ずつ前後半に分けて体験(20分ずつ) ③ダンボールベッド ④災害用トイレ ・まとめ(10分)	「Do はぐ」 ⇒6名×6班×3クラス ※避難所運営の模擬体験 ・概要説明(15分) ・体験(40分) ・解説(5分) ※概要説明は3年2組からmeet配信。その後、各学級で進行	2学年と合同 (1,2組と同グループ)	
	準備	・指導案 ・スライド資料 ・新聞紙一人あたり2枚	・段ボールベッド 14台(6班×2学級&「6組」用&講師用) ・災害用トイレ、テント ・プロジェクタ、スクリーン、PC	・Doはぐセット18個 ・事務用品(付箋、ペン) ・各種用紙 ・PC,Googlemeet準備		
	場所	1年各教室(4学級)	体育館	3年各教室(3学級)		
10:15 ~ 11:15	講師等	学年教師	基地防災課・学年教師	基地防災課・学年教師		
4	教科	特別活動				×
	内容	学習のまとめ、感想記入(Googleフォーム「全校生徒クラスルーム」) ※フォーム作成:主幹教諭				
	場所	各学級				
11:25 ~ 12:00	講師等	各学級担任				

3校時・グループ討議&新聞スリッパ作成 指導案

単位：学級毎 指導者：担任

必要なもの：PowerPoint資料、ワークシート、新聞紙（一人当たり「2枚」でOK）

パワポ資料を各担任のPCに入れておく（共有 45_1 日防災学校→学年別体験内）

形態：班隊形

	内容	留意点
導入 2分	実際に災害が発生すると、多くのことを瞬時に判断しなければなりません。皆さんなら次の状況でどんな判断をするかを話し合ってみましょう。	授業の最初にワークシートを配っておく。
展開① 10分	<p>【問題】 以下の内容が書かれたPP資料を提示</p> <p>（担任PP操作） 余震もおさまり、落ち着いてきたので、少し離れた中学校に避難することにしました。2、3日分の食料を持って行くことにしたのですが、まず一番大切な水を必要な分だけ用意しました。次に、中学校で食事が配られるまで自分たちが食べるものをリュックに詰めて持って行こうと思います。何を持って行きますか？ 次の中から選んでください。（担任PP操作） ◎ カップラーメン ◎ おにぎり ◎ パン ◎ 乾パン ◎ チョコ ◎ 缶づめ・レトルト食品</p> <p>個人の意見整理（3分）- グループ内で交流。どれか一つに決める（5分）。</p> <p>（担任PP操作）◎ が一番よい（日持ち・味）。続いて◎（味気なくすぐ飽きる）と◎（物足りない）。その次は◎・◎（日持ちしない）。◎が一番向いていない（お湯が必要、お湯が一番手に入れにくくなる）</p>	<p>◆ 生徒個々の主体的な判断</p> <p>◆ 他の意見を聞きながら、個々の判断の見直し</p>
展開② 10分	<p>（担任PP操作）上の続きです。どうやら避難生活は1週間は続きそうだということが分かりました。あなたは何を避難所に持って行きますか？1つ選び、理由も書いてください。スマホと財布は持っていくことになっていますので、それ以外で考えてください。12月、冬の出来事です。（個人3分）</p> <p>グループで意見交流してみましょう。（4分）</p> <p>交流を通じて、最終的に「自分が持って行こう」と決めたものを書いてください。（3分）</p>	<p>◆ 生徒個々の主体的な判断</p> <p>◆ 話し合いの結果を、個にフィードバック</p>
展開③ 10分	<p>（担任PP操作）あなたは一人で下校中です。歩道を歩いています。立ってられないほどの巨大地震です。車道には車も通っていますが、車も激しく揺れています。民家もあります。自分の身を守るために、どのような対応をすると良いでしょうか。（個人3分）</p> <p>グループで意見交流してみましょう。（4分）</p> <p>交流を通じて、最終的に「自分なら何を・どうするか」決めたことを書いてください。（3分）</p>	<p>◆ 生徒個々の主体的な判断</p> <p>◆ 話し合いの結果を、個にフィードバック</p>
展開④ 10分	<p>（担任PP操作）自宅にいるときに大きな地震が起こりました。あなたは一人で自宅にいて、休日の昼食を作っていました。メニューは焼きそばです。野菜や肉を切り終わりましたが、使い終わった道具（包丁など）はシンクにあり、フライパンで具材を炒め始めたところです。あなたならどうしますか。（個人3分）</p> <p>グループで意見交流してみましょう。4分）</p> <p>交流を通じて、最終的に「自分なら何を・どうするか」決めたことを書いてください。（3分）</p>	<p>◆ 生徒個々の主体的な判断</p> <p>◆ 話し合いの結果を、個にフィードバック</p>
展開⑤ 18分	<p>新聞スリッパ作成体験 担任or副担任が指導</p> <p>避難所での床の冷たさや汚れから足を守るためのスリッパで、どこにでもある新聞を折ることで簡単に作れることを説明。</p>	完成したものは持ち帰って家で報告

講評

講 評

【防犯教育】

学校安全アドバイザー：株式会社まちづくり計画設計

統括技師 松村博文氏

- 千歳市のような、市外から流入する方が多く、匿名性の高い地域は、住民間のつながりが薄い傾向にある。しかし、住民からは、「つながり」を持ちたいとの声が上がっており、そのような声を自治体が汲みとり対応していく必要がある。
- 地域での子どもの位置付けとして、「子どもを守る」ことはもちろんのこと、これからは「子どもで地域をつなげる」という視点を大切にしてほしい。
- モデル構築事業では、拠点校が学校区内の小学校や地域の方々とのつながりを持ち、一体感を持って取り組んだことは高く評価でき、地域コミュニティが希薄な都市部でのモデルになる。
- この手の活動は継続するのが難しいが、拠点校が関係機関と情報共有に加え、具体的な役割分担をしてそれぞれの成果を「見える化」するなどの連携方策が必要である。

【交通安全教育】

学校安全アドバイザー：北海道大学大学院工学研究院

教授 萩原亨氏

- 全道的に見ても、自転車乗車用ヘルメットの普及が進んでいる好事例である。
- 次年度以降も学校運営協議会を主体として継続して取り組んでいただき、100%を達成してほしい。
- 自転車の乗り方や乗車ルールについて、体験的な自転車交通安全教室を実施し、児童の自転車安全利用への意識の向上が見られたことは評価できる。
- 今後はモデル構築事業での取組について、大人を含めた喜茂別町全体で取り組んでいただきたい。また、近隣の市町村にも広く発信していただき、自転車を安全に利用する意識を全道に広めていただきたい。

【防災教育】

学校安全アドバイザー：北海道教育大学釧路校

教授 境 智 洋 氏

学校安全アドバイザー：気象庁札幌管区気象台

防災気象官 宇恵野 雅 之 氏

- 「1日防災学校」では、積極的な地域人材の活用や発達段階に応じた授業の実施など、大変すばらしい取組である。
- 今後は防災教育を教育課程の中に位置付け、防災教育が「各教科とどうつながっていくのか」、「各教科の中でどのような取組を行っていくのか」について、検討を進める必要がある。
- 小中連携を含めた取組を継続していくためには、拠点校及び近隣の小学校が協議する場に、気象台、警察、消防、自衛隊等の関係機関に参加してもらい、連携を図っていく必要がある。

令和5年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会 名簿

1 学校安全アドバイザー

No	所 属	職	氏 名	分科会
1	株式会社まちづくり計画設計	統括技師	松村 博文	防犯
2	北海道大学大学院工学研究院	教授	萩原 亨	交通
3	北海道教育大学釧路校	教授	境 智洋	防災
4	気象庁札幌管区气象台	防災気象官	宇恵野 雅之	防災

2 構成員

No	所 属	職	氏 名	分科会
5	北海道PTA連合会	副会長	林 亨	防犯
6	公益財団法人北海道防犯協会連合会	専務理事	山崎 正史	防犯
7	北海道環境生活部くらし安全局道民生活課	主幹	小池 貴幸	防犯
8	北海道警察本部生活安全部生活安全企画課	課長補佐	篠田 智之	防犯
9	国土交通省北海道開発局建設部道路維持課	道路防災専門官	森岡 啓司	交通
10	北海道環境生活部くらし安全局道民生活課	主幹（交通安全）	中田 智雄	交通
11	北海道建設部土木局道路課	課長補佐	工藤 実高	交通
12	北海道警察本部交通部交通企画課	課長補佐	川上 拓	交通
13	気象庁札幌管区气象台気象防災部地域防災推進課	リスクコミュニケーション推進官	望月 隆史	防災
14	北海道総務部危機対策局危機対策課	課長補佐（教育訓練）	葛西 忍	防災
15	千歳市教育委員会	学校指導課長	三田村 要	防犯
16	喜茂別町教育委員会	教育振興係長	白川 博順	交通
17	恵庭市教育委員会	教育総務課主査	笹村 雄平	防災
18	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長	大槻 直広	-
19	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長補佐	高川 志野	-

北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～

令和6年（2024年）2月

編集・発行 北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

札幌市中央区北3条西7丁目

011-231-4111
